

# 先進事例 紹介

## 応急手当ジュニアインストラクター制度

千葉県 千葉市消防局

### 1 はじめに

千葉市消防局では、子供たちが同世代の子供たちに応急手当を指導する「応急手当ジュニアインストラクター制度」を導入しています。

制度誕生の経緯、導入後の展開・効果・今後の展望について御紹介いたします。

### 2 経緯

応急手当ジュニアインストラクター（以降、「J I」とします。）制度誕生の契機は、平成26年に開催された子供たちと市長のランチミーティングでの小学生からの提案でした。

平成23年度から応急手当普及員との協働事業として応急手当インストラクター制度を開始していましたが、子供たちから「私たちも同じように応急手当を広めるお手伝いをしたい」という提案からです。

若年期から応急手当の普及に関わっていくことは、バイスタンダー育成と救命率向上につながることから、この提案の実現に向けてスタートし、平成27年4月に第1期10名のJ Iが誕生しました。

### 3 J Iの認定と登録要件

- (1) 「こども救命講習」受講済の小学4年生～小学6年生まで
- (2) 指導技法主体の「応急手当ジュニアインストラクター講習」（3時間：写真1）受講後、保護者からの承諾書提出により登録。



写真1：応急手当ジュニアインストラクター講習

- (3) 任期は中学卒業まで。ジュニアインストラクター証とピンバッジ（写真2）を認定時交付（ピンバッジは提案した子供たちがデザインしたもの）



写真2：ジュニアインストラクター証とピンバッジ

### 4 指導対象者及び指導方法

- (1) 小学4年生～6年生を対象とした「こども救命講習」の指導者として指導にあたる。
- (2) 応急手当普及イベントにおいて子供たちを対象とした応急手当の指導にあたる。
- (3) (1)(2)とも、指導時は、消防局の応急手当指導員または応急手当インストラクターが補助に入りますが、指導の主役はJ Iが担い行っています。（写真3）



写真3：J Iによる講習指導の様子

- (4) 応急手当の必要性をクイズ形式にした「紙芝居」を教材として使用し、J Iの指導内容を統一しています。（写真4）

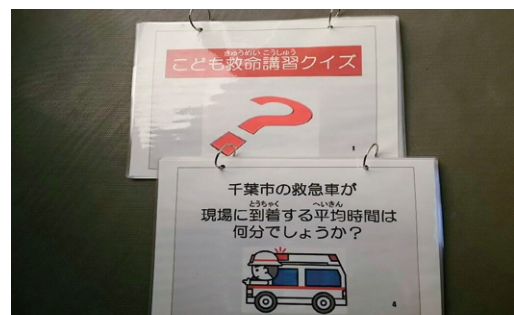
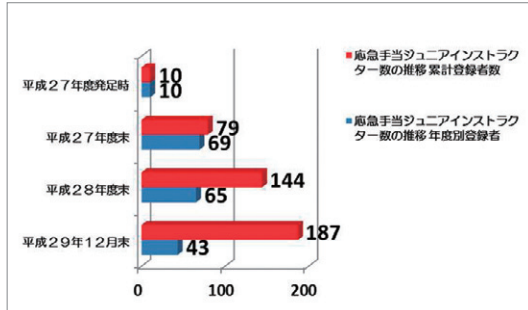


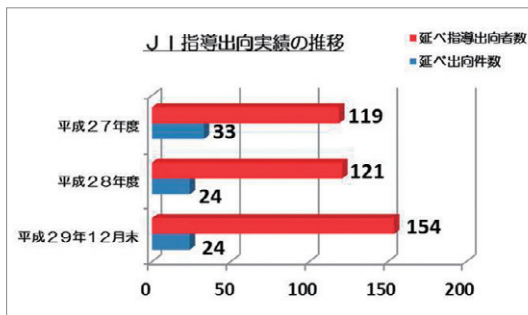
写真4：J I指導用教材

## 5 展開

### (1) J I 登録状況の推移



### (2) J I 指導外向実績の推移



## 6 効果

登録者数、指導実績ともに年々増えています。

発足当初は消防主導で養成を行っていましたが、J I として活躍する同世代の子供たちの姿を見て「私もやってみたい」という意識の芽生え、「子供にやらせてみたい」という保護者や学校からの要望による開催が多くなっており、その導入効果は非常に大きいと思われます。

J I から指導を受ける子供たちも、同世代の子供が同じ目線で指導してくれることから、「教わる」から「学ぶ」という姿勢の変化も見られるようになりました。

また、波及効果として、J I の保護者が、我が子の姿に触発され、応急手当普及員から応急手当インストラクター資格を取得、親子で応急手当の普及を行っている例もあり、子供だけでなく大人の意識改革にも大きな効果をもたらしています。

## 7 課題

スタートから3年、課題も見えてきました。

### (1) 指導スキルの格差

指導回数により、スキルに個人差が出てきています。指導回数が多いJ I の中には、成人インストラクターと同等のスキルに到達している子供がいる一方、「指導経験が少なく自信がない」という子供もいたことから、平成28年度からフォローアップ講習を開催し課題の解決を図っています。

### (2) 活動機会の拡大

J I の活動は、学校が休みの日に限定されるため、活動機会の拡大も課題です。機会拡大により参加J I が増え、スキルの維持向上につながります。

本市では、小学5年生と中学2年生を対象とした救命講習を推進していることから、教員とともに学校で活躍できるような仕組みづくりも検討中です。

## 8 展望

若年期から応急手当普及に関わることは非常に大きな意義があり、地域救護能力の向上に大きく寄与していくものと思われ、将来的には下図のようなサイクルが構築できればと考えています。



その一環として、平成29年に以下の取組を実施しました。J I の任期は中学卒業までとなっており、中学を卒業すると応急手当普及に関与する機会が減少してしまうことから、中学卒業後も培ったスキルを有効活用できるよう、J I として6時間以上の指導実績を有する中学生J I を対象とした応急手当普及員講習を開催し、8名の中学生J I が応急手当普及員にステップアップしました。

まだまだ少数ですが、J I の活動を積み重ねることがステップアップにつながるというモチベーションの向上と併せ、中学生J I が活躍する機会が増えることを期待しています。

## 9 おわりに

J I の中には「将来は千葉県消防局で救急救命士になりたい」という「夢」を持っている子もおり、子供たちは地域の宝であることを改めて感じました。

近い将来、J I 出身の救急救命士が、J I と共に応急手当の普及活動を行う、そんな日が来ることを願っています。